

陸・海・空、広がる交通網と 宮城県沖地震の発災

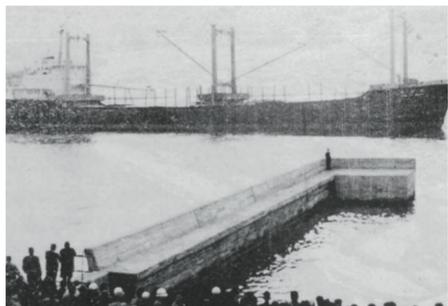
昭和47年に宮城県制100周年を迎え、石巻工業港と仙台港への第一船入港、新仙台駅の開業、仙台空港へソウルからの国際便、東北縦貫自動車道の県内全線開通など、県内外を結ぶ交通網が発展しました。一方で昭和53年には宮城県沖地震が発生し、震災からの復旧に対応しました。

[昭和②] 昭和41年—54年 (1966) (1979)

昭和			平成			令和
①	②	③	①	②	③	

石巻港 第一船入港 昭和42年(1967)

石巻港は昭和35年に釜地区で工業港建設工事に着手したことに始まり、その後重要港湾の指定を受け、県北部の拠点港として整備が進められ昭和42年に第一船の「越後丸」が入港しました。



コバルトライン開通 昭和46年(1971)

宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜と石巻市鮎川浜を結ぶ、有料道路牡鹿コバルトラインが開通しました。当初は有料道路として開通し、平成8年4月に無料開放され、地域の観光と産業の発展に寄与してきました。



仙台港 第一船入港 昭和46年(1971)

仙台港は昭和39年に6市9町が新産業都市「仙台湾地区」に指定されたことを受け、臨海型工業の開発拠点として港湾計画を策定、昭和46年7月に第一船の「丹後丸」が入港しました。



樽水ダム完成 昭和52年(1977)

過去に発生した洪水や沿川地域の急激な発展に対応するため、洪水調節や灌漑、上水道の供給を行う多目的ダムとして名取川水系増田川に計画された中央コア型ロックフィルダムです。

[昭和②] 昭和41年—54年

昭和42年	3月	石巻港 第一船入港
46年	4月	コバルトライン開通
46年	7月	仙台港 第一船入港
47年	2月	宮城県制100年
52年	3月	樽水ダム完成
52年	11月	新仙台駅開業
53年	6月	仙台空港 初の国際便(ソウル便)運航
53年	6月	宮城県沖地震
53年	12月	東北縦貫自動車道 県内全線開通
54年	7月	日和大橋開通



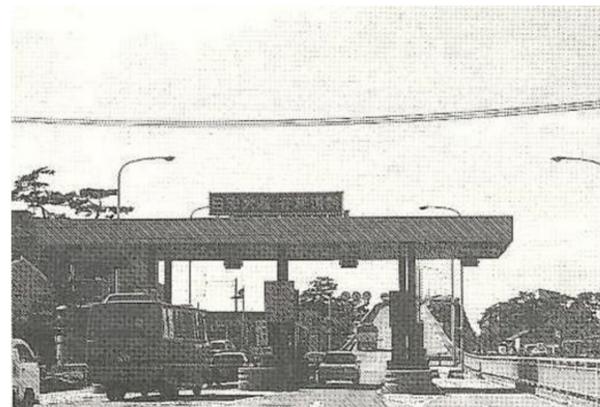
宮城県沖地震 昭和53年(1978)

昭和53年6月12日午後5時に発生、死者27人、負傷者約1万人、倒壊・破損家屋約17万6千戸のほか、公共土木施設にも橋梁の落下など甚大な被害をもたらし、被害総額は約2,687億円に達しました。



東北縦貫自動車道 県内全線開通 昭和53年(1978)

昭和40年に基本計画が告示され、翌年から工事に着手、昭和53年12月に築館ICから一関IC間が供用開始し、県内の全線131.8kmが完成するとともに、埼玉県岩槻市から盛岡市まで延長494.6kmの供用が開始されました。



日和大橋開通 昭和54年(1979)

石巻港の開港などの影響による市内の道路交通量の増加に対応するため、旧北上川河口の三つ目の橋として開通しました。当初は有料道路でしたが、平成12年から無料開放されました。